平成二十三年度秋季特別展

南都の繁栄

ー平城京その後ー

南都の諸郷

例　言

1　この冊子は、平成 23 年 11 月 1 日～平成 23 年 12 月 28 日まで奈良市埋蔵文化財調査センターで開催する、平成 23 年度秋季特別展「南都の繁栄ー平城京その後ー」の解説パンフレットです。

2　掲載写真は、奈良市埋蔵文化財調査センターが撮影したものと、新規に佐藤右文が撮影した写真（1～3・5～11・13～20・24・25・28・31・34・35・40・41・43）を使用しました。

3　本書の執筆は、森下惠介・三好美穂・安井宣也・中島和彦・奥井智子・久保清子が担当しました。

4　掲載写真は展示品のすべてではありません。

5　本書の編集・レイアウトは埋蔵文化財調査センター職員の協力のもとに、久保清子が行いました。

中世土器の世界

中世土器の確立

時代が古代から中世に変わると、それと共に土器の様相も変化してゆきます。奈良時代の土器は、主に土師器と須恵器から構成され、少数の黒色土器と奈良三彩がありましたが、平安時代に入ると須恵器が減り、黒色土器が増加します。またさらに緑釉陶器・灰釉陶器が加わります。これらは主に国家とくに都城内での需要に応えるものでした。その後の平安時代後半には大きな変化がおこります。この時期の土器には、土師器、瓦器、須恵器、常滑などの東海地方産の陶器があります。これらはその特性に合った形のものを、専門にかつ大量に生産しています。また中国産陶磁器を含め、この時期以降日本列島内に広く多量に出土する土器が出現します。当時芽生えつつあった列島規模の商品生産・流通がうかがえ、奈良もその渦中にあることがわかります。中世土器の時代が始まったのです。

黒い器　～黒色土器から瓦器へ～

平安時代になると、素焼きの土師器を燻し焼にし、炭素（煙）を吸着させた黒色土器が現れます。器に保水性をもたせるための工夫とみられ、内側だけを黒化させたもの（黒色土器Ａ類）から全体を黒化させたもの（黒色土器Ｂ類）が主体をしめるようになり、11 世紀には灰白色の素焼きの土器を燻した瓦器が出現します。器の形は平安時代の間に底部が広い杯から底部が小さな椀の形に変っていき、規格性をもった椀と皿の組み合わせが確立します。瓦器椀は 14 世紀の南北朝時代までありますが、だんだんと退化してゆき、形だけのものになり、儀式用の使い捨ての器であったことをものがたっています。

1　黒色土器Ａ類椀・皿、黒色土器Ｂ類椀
奈良市内各地　平安時代（8 世紀末～ 11 世紀）

2　瓦器椀・皿
奈良市内各地
平安時代後半～室町時代
（11 世紀末～ 16 世紀）

土師器皿の変化　～1300年の歴史の器～

奈良市内の中世遺跡の発掘調査では、ほぼ必ずといっていいほど土師器皿が出土します。素焼きで手のひらにのりそうな土師器皿は、作り方もいたってシンプルで、内面を平滑になでた後、形を整えるために口縁部に沿って横方向になでるだけで、外面は手で形づくったときのままの凹凸を残します。ロクロは使っていません。奈良では同様な作り方で、奈良時代から現代まで土師器皿を作りつづけています。土師器皿が、同一の製作技術を保ちながら1000年以上も作り続けられる地域は、中世京都を除いて他にありません。

単純な形の土師器皿ですが、時期により少しずつ変化します。平安時代前半では、杯（つき）と椀と皿が作りわけられていますが、しだいにその差がなくなり、平安時代後半には大小の皿だけになります。またこの皿を時代順に並べると、徐々に口径が縮小することがわかります。平安時代後半では口径15㎝の大皿が、室町時代の後半では8㎝ほどになります。また形や土の色も微妙に変化します。これらの変化から、土器の新古がさらには時代も判明します。土師器皿は、古代から近世まで長期間作り続けられており、遺跡の時代を測る良好なものさしとなります。

また土師器皿は、井戸や土坑からほとんど使用した痕跡がない状態で、割れずにしかも大量に出土します。瓦器と同様に、使い捨ての器だったと考えられます。

３　土師器杯・皿・椀　奈良市内各地
奈良～室町時代（８～16世紀）

赤土器・白土器

鎌倉時代後半から室町時代前半の土師器皿には、意図的に白い色調に作った一群が出現します。一方従来の土師器皿は鎌倉時代前半から赤みが強い胎土のものが増し、後半には赤い色調のもののみとなります。いずれも小皿には、底面を上方へ押し上げて上げ底状にした「へそ皿」があります。同様な特徴が、同時期の中世京都の土師器皿でも見られ、京都からの影響が考えられます。赤と白の土師器皿を使いわける、なんらかの儀式の流行があったのでしょう。

室町時代後半の奈良に関する文献には「赤土器座」と「白土器座」の名が見られますが、この時期の土師器皿の色調はすべて黄土色系で、赤白の色調が失われた時期になります。

４　土師器皿出土状態　中世奈良（高天）遺跡
室町時代（14世紀後半～15世紀前半）

羽釜の変化

羽釜（はがま）とは、釜の体部に鍔（つば）（羽）を水平にめぐらせた煮炊き具のことで、火にかける際には、現在と同様に、鍔を竈（かまど）にかけて使用すると考えられています。古代にも羽釜は存在しますが、煮炊き具の主体は甕（かめ）でした。中世では逆転し、甕より羽釜が主体を占めるようになります。当初は、砂を多く含む粘土でつくられ、器壁は厚く、体部の最大径よりも広い、厚みのあるしっかりした鍔が貼り付けられており、手にとると、両手にずっしりとした重さを感じます。しかし時期が下るにつれ、よりきめ細かく精良な粘土が使われ、器壁の薄い、短い鍔の小さい簡素なものになります。中には、鍔が体部の最大径を越えないものもあり、大きさの割には軽いと感じるほどになります。

羽釜の軽量化は、製作技術が向上した結果といえますが、生産者が消費者のニーズに応えた結果であるとも考えられます。また鍔が簡素になったのは、火にかける方法が変化したためと考えられます。ひいては、新たな材料や調理方法が生活に取り入れられ、生活スタイルが変化したことを示している可能性があります。

５　土師器甕・羽釜　奈良市内各地
奈良～室町時代（８世紀後半～17世紀初頭）

青と白へのあこがれ　～緑釉陶器と灰釉陶器～

平安時代になると、緑釉陶器や灰釉陶器と呼ばれる釉薬を施した焼物（施釉陶器）が多量につくられるようになります。緑釉陶器は硅酸鉛を主成分に銅を呈色剤とし、灰釉陶器は植物の灰を主原料にしたものです。８世紀代に作られた奈良三彩の多くは金属製仏器や須恵器を模した形態をとりますが、緑釉陶器や灰釉陶器の大部分は中国（唐）の陶磁器類の碗・皿を模しています。「青瓷」と呼ばれた緑釉陶器は唐の青磁を、「白瓷」と呼ばれた灰釉陶器は唐の白磁を意識して作られたと考えられています。また、奈良三彩は限定的な豪奢品で生産量も少なかったのに対し、緑釉陶器・灰釉陶器は、日常の食器として使う人々の階層的な広がりとともに需要が増加し、大量生産されたものと考えられます。

6　緑釉陶器
奈良市内各地
平安時代
（９～10 世紀）

7　灰釉陶器
奈良市内各地
平安時代
（９～10 世紀）

唐物の世界　～輸入陶磁器～

中国で生産された陶磁器は、当時広く世界に輸出され、その波は日本列島にも及んでいました。中世奈良遺跡とその周辺では、各時代を通して中国産陶磁器が出土し、時代ごとの輸入陶磁器の変化が追えます。主要なものを列挙すると、平安時代前半には越州窯系青磁・定窯系白磁が、平安時代後半から鎌倉時代には、中国南部沿岸産の白磁と同安窯系・龍泉窯系の青磁が、室町時代には、これらに青花が加わります。

平安時代後半からは、陶磁器の出土量がそれまでに比べ激増し、農村部でも普遍的に出土します。一方都市部では、褐釉陶器壷や白磁合子など珍しいものが一定量出土し、質の差が見られます。

８　輸入磁器　奈良市内各地
平安時代　唐～宋代　（９～10 世紀）

９　輸入陶磁器　奈良市内各地
平安時代後半～鎌倉時代
宋代（12 ～ 13 世紀）

10　輸入陶磁器
奈良市内各地
室町時代
明代（14 ～
17 世紀初頭）

中世陶器の隆盛　～国産陶器～

中世陶器の源流には、奈良時代以来の須恵器と、平安時代前半に須恵器から発達した灰釉陶器の２つがあります。須恵器の系譜には、東播磨の神出（かみで）・魚住（うおずみ）で生産された中世須恵器、備前産陶器が、灰釉陶器の系譜には、瀬戸・常滑・信楽・丹波産の陶器があります。この中で瀬戸産陶器は、中世で唯一釉薬をかけた焼物で、食器類・壷などを生産します。一方瀬戸を除く他の生産地では、釉薬をかけない壷・甕・鉢を主に生産しています。いずれも、日本列島全域に製品を広く流通させています。中世奈良遺跡では、主要な産地の陶器は一定量出土しますが、室町時代には信楽産の陶器が、比較的多く出土することが特徴です。また陶器の他にも、他地域産の土師器や瓦器、肥前産の石鍋が出土しており、当時の物流をものがたっています。

11　常滑産甕
中世奈良（高畑）遺跡
鎌倉時代末
（13 世紀前半）

12　備前産甕
中世奈良
（椿井）遺跡
室町時代
（16世紀前半）

13　須恵器・国産陶器　奈良市内各地
平安～室町時代（12 ～ 16 世紀）

花かたにやくなら火ばち　～瓦質土器～

室町時代から江戸時代の初めには瓦作りの技法を焼き物に応用したとみられる瓦質土器が奈良で多くつくられました。西の京付近で作られたとみられる奈良火鉢や奈良風炉は有名で、京にも盛んに売り出されました。これらは青銅製品の代用品であることが多く、15 世紀の『三十二番職人歌合』には「火鉢うり」が描かれ、「八重さくら　名におふ京のものなれは　花かたにやくなら火ばちかな」の歌が添えられ、輪花形に作った奈良火鉢のことを歌っています。

14　瓦質土器盤　中世奈良（林小路）遺跡
平安時代末～鎌倉時代（12 世紀後半）

15　瓦質土器火鉢　奈良市内各地
室町時代（14 ～ 16 世紀）

16　瓦質土器火鉢　大安寺旧境内
室町時代（15 世紀前半）

17　瓦質土器風炉・羽釜・擂鉢・香炉
奈良市内各地
室町時代（14 世紀～ 17 世紀初頭）

瓦作りの伝統

天平文化の伝流　～復古調紋様瓦～

都が平城京から平安京に遷った後も、寺院は奈良にとどまりました。都の建物の甍を飾るために培われた瓦作りの技術は、その後も引き継がれ、寺院の堂塔の修理の際に活かされました。

平安時代前半では、軒瓦の紋様は、奈良時代末頃のものと大きな変化はありませんが、大安寺旧境内からは、この頃の軒瓦の中には、白鳳時代の紋様をまねて作られた復古調のものが見つかっています。

18　復古調軒丸瓦
大安寺旧境内
平安時代後半（11 世紀）

19　復古調軒平瓦　大安寺旧境内
左：平安時代前半（８世紀末～10 世紀初頭）
右：平安時代後半（11 世紀）

巴紋の出現

平安時代後半になると、軒瓦の紋様と大きさは多様化していきます。軒丸瓦では、蓮華紋の中房内に巴紋を飾るものが出現します。巴紋は水流を表していると考えられ、平安時代後半以降、軒瓦の紋様として好んで用いられるようになります。

20　左：蓮華巴紋軒丸瓦
大安寺旧境内（大安寺四丁目）
右：巴紋軒丸瓦
大安寺旧境内（大安寺一丁目）
平安時代後半（12 世紀初頭）

文字瓦の流行

鎌倉時代に入ると、治承四年（1180）平重衡による南都焼き打ちにあった東大寺や興福寺をはじめ、各寺院で復興事業が盛んに行われました。その際に作られた軒瓦には、瓦当面に「東大寺大佛殿」や「大安寺」・「大安寺寶塔」といった寺院名や堂塔名を飾るものが多くみられます。

21「東大寺大佛殿」文字紋軒瓦　東大寺旧境内
鎌倉時代前半（12 世紀末）

22「大安寺寶塔」「大安寺」文字紋軒瓦
大安寺旧境内
鎌倉時代後半（13 世紀中頃）

寺から城へ

奈良時代から続く瓦作りの高い技術は、平安時代以降の寺院の復興や修理に活かされ、伝わり続けました。戦国時代に、全国に先駆けて奈良で築かれた城の屋根を瓦葺きにすることができたのは、この優れた瓦作りの技術が受け継がれてきたからだといえます。その城とは永禄年間（1558 ～ 70）に松永久秀によって築かれた多聞城で、当時城を訪れたポルトガル人宣教師は白壁に生える黒一色の瓦葺きの美しさと、一度葺けば四、五百年は保つ技の高さに感嘆したことを記録に残しています。

23　多聞城創建軒瓦　多聞城跡
室町（戦国）時代（16 世紀）

24　多聞城創建軒平瓦　多聞城跡
室町（戦国）時代（16 世紀）

25　法隆寺同笵軒平瓦　多聞城跡
室町時代後半（15 世紀）

製作技法の変化

26　顎貼り付け技法　東大寺旧境内
鎌倉時代前半（12 世紀末）

27　瓦当貼り付け技法
大安寺旧境内
鎌倉時代後半
（13 世紀中頃）

中世以降の軒平瓦の製作技法は、一部の地域を除き鎌倉時代前半にみられる顎（あご）貼り付け技法から鎌倉時代後半以降にみられる瓦当貼り付け技法、そして室町時代末に復活する顎貼り付け技法へと変化しています。顎貼り付け技法とは、平瓦凸面の広端に別粘土を貼って瓦当（がとうぶ）部とする方法で、瓦当貼り付け技法とは、平瓦広端凸面側を斜めに削り、瓦当用粘土を接合する方法です。瓦当貼り付け技法の中でも変化がみられ、室町時代に入ると顎後縁に面取りを施すものが作られるようになり、15 世紀前半には、軒平瓦の瓦当外区面を平滑に仕上げて作るものがみられるようになります。

28　顎貼り付け技法　多聞城跡
室町（戦国）時代（16 世紀）

中世奈良のくらし

くらしの品々

曲物のように、日々の生活で身近に使われていたものから、冠婚葬祭、戦などさまざまな場面で使われている道具類があります。これらは絵巻物の中にも多く描かれており、当時の道具の種類や使い方がわかり、人々の暮らしぶりが伝わってきます。

29 「湯屋口延久参年四月十日」墨書曲物
西ノ京遺跡
平安時代後半（11 世紀後半）

30　鉄製轡　佐保田庄遺跡
平安時代末～鎌倉時代（12 世紀後半）

31　双鳥文六稜鏡　中世奈良（今小路）遺跡
平安時代（11 世紀）

平安時代に入ってからも、奈良時代に好まれた唐鏡の影響を受けた鏡が作り続けられますが、平安時代後半には、日本でみられる身近な草花や鳥などを飾る和鏡が作られるようになります。

32　花鳥文鏡　中世奈良（井上）遺跡
室町時代（14 世紀）

中世流通の銭貨

平安時代以降も奈良時代の和同開珎から続く銭貨（皇朝十二銭:隆平永寶、富壽神寶、承和昌寶、長年大寶、饒益神寶、貞観永寶、寛平大寶、延喜通寶、乾元大寶）が国家により発行されますが、時代が下るにつれて小さくなり、鉛の含有量も増え、やがて 10 世紀後半には、国家による貨幣鋳造は行なわれなくなります。しかし、その後さまざまな物流が盛んになり経済が発展するにつれて、貨幣の必要性はさらに高まり、12 世紀後半以降は、中国から良質な渡来銭（宋銭・明銭）が輸入され、流通するようになります。

33　皇朝十二銭　奈良市内各地
奈良～平安時代（８～ 10 世紀）

34　北宋銭　奈良市内各地
平安時代　宋代（10 ～ 12 世紀）

35　明銭　中世奈良（中院・鵲）遺跡
室町時代　明代（14 ～ 15 世紀）

蛭藻金（ひるもきん）は金塊をたたき延ばして長楕円形の薄板状したもので、表面には槌目（つちめ）がつき、水草のヒルムシロの葉に似ることからその名があります。見つかったものは切断されており、切り遣いされる金地金でもあったことがわかります。完存したものは、安土城下町遺跡、一乗谷朝倉氏遺跡のいずれも 16 世紀後半の遺跡から出土しており、戦国時代につかわれた小判の先駆形態であるといえます。

36　蛭藻金（ひるもきん）　中世奈良（北室町）遺跡
室町時代末（16 世紀）

人々の祈り

病気快癒や無病息災を祈り、穢れを祓うためのまじないなどに使われた人形、神や仏に清らかなる音色を捧げ、魔除けの意味もこめられた金色の鈴、能の中でも神聖視される翁の面、五穀豊穣や世の安泰の願いを込め、神に捧げられた大小のごんぱいなど、祈りに捧げられた品々からは、当時の人々のより良い暮らしと幸せを願う気持ちが伝わってきます。

37　金銅鈴　西ノ京町所在遺跡
平安時代前半（10 世紀中頃～後半）

38　人形（ひとがた）　法華寺町所在遺跡
平安時代前半（９世紀）

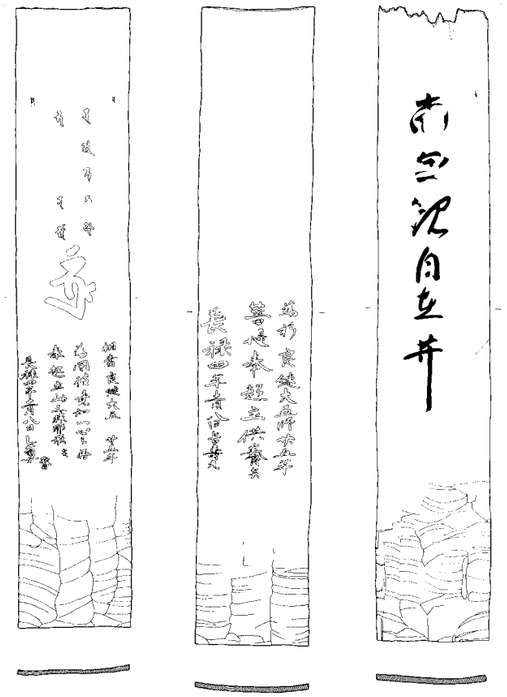
39　能面　菅原東遺跡
室町時代（15 世紀）

40　ごんぱい　中世奈良（北室）遺跡
室町時代（14 世紀末～ 15 世紀初頭）

死者への弔い

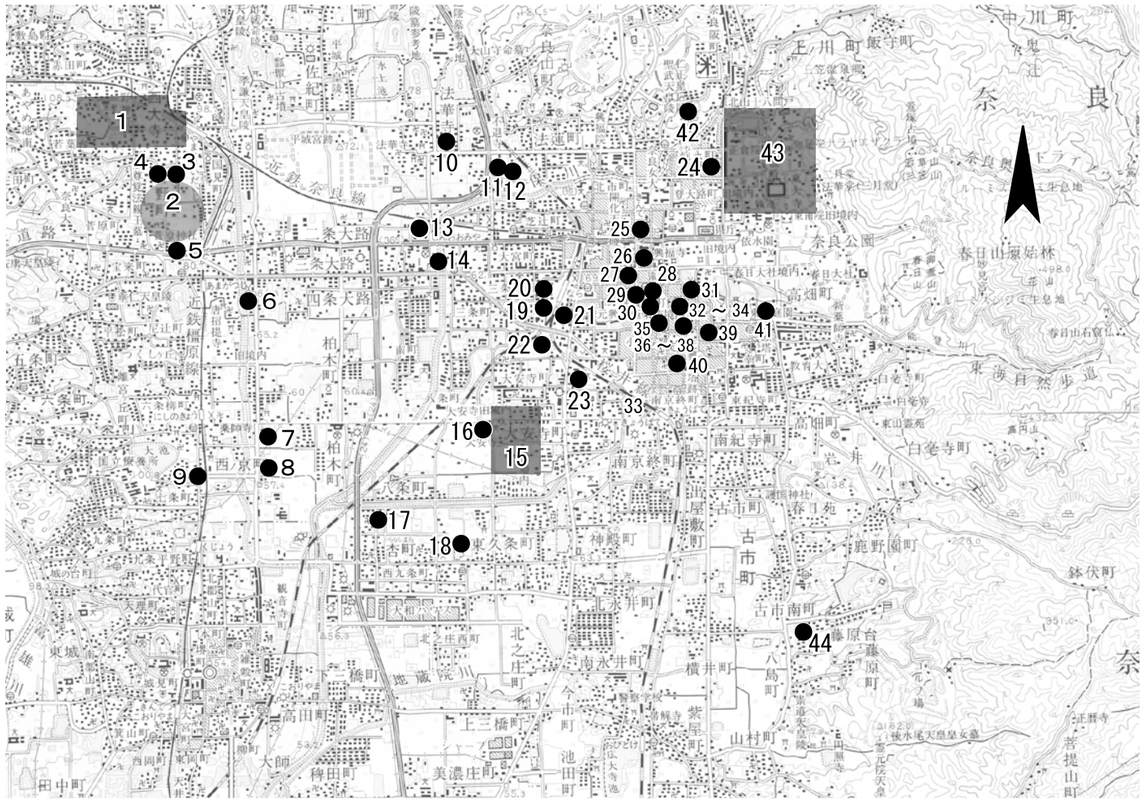
人はやがて死を迎え、葬られる日がやってきます。死者を埋葬するための墓は、地域性や身分の違いなどによりさまざまなものがありました。室町時代には、仏教の普及定着や生産の向上、地縁的結合（惣村）を背景に村々の集団墓地がつくられました。古市城山遺跡で見つかった墓地も 14 世紀末から 16 世紀にかけてつくられた火葬墓群で、蔵骨器として用いられた土師器羽釜には、真言や梵字、被葬者の法名、没年号等が墨で記されているものがあります。また、この頃の墓には卒塔婆（そとば）がたてられるものもありました。この他、死者への弔いとしては、追善供養として柿経（こけらきょう）がつくられたりしています。

41　蔵骨器　古市城山遺跡
室町時代（15 世紀中頃～後半）



42　卒塔婆（そとば）　菅原東遺跡
室町時代（15 世紀中頃）

43　柿経（こけらきょう）　大宮町七丁目所在遺跡
室町時代（16 世紀）



展示品の出土した主な遺跡　1/50,000

番号	遺跡名	所在地
1	西大寺旧境内	西大寺南町 西大寺新田町
2	菅原東遺跡	菅原町・青野町
3	平城京跡（右京二条三坊二・三坪）	菅原町
4	平城京跡（右京二条三坊七坪）	菅原町
5	平城京跡（右京三条三坊三坪）	菅原町
6	平城京跡（右京四条二坊二坪）	四条大路五丁目
7	西ノ京町所在遺跡	西ノ京町
8	六条町所在遺跡	六条町
9	西ノ京遺跡	七条町
10	法華寺町所在遺跡	法華寺町
11	佐保田庄遺跡	法蓮町
12	法蓮町所在遺跡	法蓮町
13	二条大路南一丁目所在遺跡	二条大路南一丁目
14	大宮町七丁目所在遺跡	大宮町七丁目
15	大安寺旧境内	大安寺一・四・五丁目・東九条町
16	大安寺二丁目所在遺跡	大安寺二丁目
17	杏町所在遺跡	杏町
18	東九条町所在遺跡	東九条町
19	平城京跡（左京四条四坊十四坪）	三条宮前町
20	平城京跡（左京四条四坊十五坪）	三条宮前町
21	三条本町所在遺跡	三条本町
22	大森町所在遺跡	大森町
23	西木辻町所在遺跡	西木辻町
24	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町
25	中世奈良（高天）遺跡	高天町
26	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町
27	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町
28	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町
29	中世奈良（東城戸）遺跡	東城戸町
30	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町
31	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町
32	中世奈良（勝南院）遺跡	勝南院町
33	中世奈良（北室）遺跡	北室町
34	中世奈良（中新屋町）遺跡	中新屋町
35	中世奈良（鳴川）遺跡	鳴川町
36	中世奈良（中院）遺跡	中院町
37	中世奈良（鵲）遺跡	鵲町
38	中世奈良（芝新屋）遺跡	芝新屋町
39	中世奈良（十輪院）遺跡	十輪院町
40	中世奈良（井上）遺跡	井上町
41	中世奈良（高畑）遺跡	高畑町
42	多聞城跡	法蓮町
43	東大寺旧境内	雑司町・水門町
44	古市城山遺跡	古市町

展示品目録

番号	展示品名	遺跡名	所在地	年代	点数
	中世土器の世界				
	■黒い器　～黒色土器から瓦器へ～				
1	黒色土器Ａ類椀	三条本町遺跡	三条本町	8世紀末～9世紀初頭	1
	黒色土器Ａ類椀	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀後半～10世紀初頭	1
	黒色土器Ａ類皿	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀後半	1
	黒色土器Ｂ類椀	中世奈良（鳴川）遺跡	鳴川町	10世紀中頃	1
	黒色土器Ａ類椀	西大寺旧境内	西大寺南町	10世紀中頃～後半	1
	黒色土器Ｂ類椀	大安寺町所在遺跡	大安寺町	10世紀後半～11世紀初頭	1
	黒色土器Ａ類椀	菅原東遺跡	菅原町	11世紀	1
	黒色土器Ｂ類椀	菅原東遺跡	菅原町	11世紀	2
	黒色土器Ｂ類椀	大安寺二丁目所在遺跡	大安寺二丁目	11世紀	2
	瓦器皿	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	11世紀末	1
	瓦器椀	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	11世紀末	1
	瓦器皿	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	11世紀末～12世紀初頭	1
	瓦器椀	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	11世紀末～12世紀初頭	1
	瓦器皿	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀後半	1
	瓦器椀	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀後半	1
	瓦器皿	中世奈良（井上）遺跡	井上町	13世紀前半	1
	瓦器椀	中世奈良（井上）遺跡	井上町	13世紀前半	1
	瓦器皿	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	13世紀中頃	1
	瓦器椀	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	13世紀中頃	1
	瓦器椀	中世奈良（十輪院）遺跡	十輪院町	14世紀初頭	1
	瓦器椀	西大寺旧境内	西大寺南町	14世紀後半	1
	瓦器椀	西大寺旧境内	西大寺南町	15世紀後半	1
	■土師器皿の変化　～1300年の歴史の器～				
2	土師器皿Ａ	平城京跡（右京四条二坊二坪）	四条大路五丁目	8世紀後半	1
	土師器杯Ａ	平城京跡（左京四条四坊十四坪）	法華寺町	8世紀後半	1
	土師器椀Ａ	平城京跡（左京四条四坊十五坪）	三条宮前	8世紀後半	1
	土師器椀Ａ	東九条町所在遺跡	東九条町	9世紀前半	1
	土師器杯Ａ	東九条町所在遺跡	東九条町	9世紀前半	1
	土師器皿Ａ	東九条町所在遺跡	東九条町	9世紀前半	1
	土師器杯Ａ	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～後半	1
	土師器皿Ａ	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～後半	1
	土師器椀Ａ	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～後半	1
	土師器皿Ａ	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀末～10世紀初頭	1
	土師器杯Ａ	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀末～10世紀初頭	1
	土師器皿	西大寺旧境内	西大寺南町	10世紀中頃～後半	1
	土師器皿	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	10世紀後半～11世紀初頭	1
	土師器杯	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	10世紀後半～11世紀初頭	1
	土師器皿	菅原東遺跡	菅原町	11世紀	1
	土師器皿	大安寺町所在遺跡	大安寺町	11世紀	2
	土師器皿	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	11世紀末	3
	土師器皿	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	11世紀末～12世紀初頭	3
	土師器皿	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀後半	3
	土師器皿	中世奈良（井上）遺跡	井上町	13世紀前半	3
	土師器皿	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	13世紀前半	2
	土師器皿	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	13世紀中頃	3
	土師器皿（赤）	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	13世紀末～14世紀初頭	1
	土師器皿（白）	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	13世紀末～14世紀初頭	1
	土師器皿	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	13世紀末～14世紀初頭	2
	土師器皿（赤）	中世奈良（十輪院）遺跡	十輪院町	14世紀初頭	2
	土師器皿（白）	中世奈良（十輪院）遺跡	十輪院町	14世紀初頭	2
	土師器皿（赤）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀後半	2
	土師器皿（白）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀後半	2
	土師器皿（赤）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	15世紀中頃	2
	土師器皿（白）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	15世紀中頃	2
	土師器皿（赤）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	15世紀中頃～後半	2
	土師器皿（白）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	15世紀中頃～後半	2
	土師器皿	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	15世紀後半	2
	土師器皿	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	16世紀	2
	■羽釜の変化				
3	土師器甕	平城京跡（右京三条三坊三坪）	菅原町	8世紀後半	1
	土師器羽釜	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	11世紀末	1
	土師器羽釜	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	12世紀前半	1
	土師器羽釜	中世奈良（井上）遺跡	井上町	13世紀前半	1
	土師器羽釜	中世奈良（脇戸・東城戸）遺跡	脇戸町・東城戸町	13世紀前半	1
	土師器羽釜	中世奈良（東寺林）遺跡	東寺林町	13世紀中頃～後半	1
	土師器羽釜	西大寺旧境内	西大寺新田町	14世紀後半	1
	土師器羽釜	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀後半～15世紀後半	1
	土師器羽釜	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16～17世紀	1
	■青と白へのあこがれ　～緑釉陶器と灰釉陶器～				
4	緑釉陶器羽釜	大安寺旧境内	大安寺一丁目	8世紀末～9世紀初頭	1
	緑釉陶器羽釜	菅原東遺跡	菅原町	8世紀末～9世紀初頭	1
	緑釉陶器椀	大安寺旧境内	大安寺一丁目	8世紀末～9世紀初頭	1
	緑釉陶器椀	法蓮町所在遺跡	法蓮町	8世紀末～9世紀初頭	1
	緑釉陶器椀	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀前半～中頃	1
	緑釉陶器皿	大安寺旧境内	大安寺四丁目	9世紀中頃～後半	1
	緑釉陶器瓶	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～10世紀初頭	1
	緑釉陶器椀	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～10世紀初頭	3
	緑釉陶器鉢	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃～10世紀初頭	2
	緑釉陶器椀（陰刻花文）	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	9世紀後半～末頃	1
	緑釉陶器椀	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀後半～末頃	1
	緑釉陶器皿	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀末～10世紀初頭	1
	緑釉陶器椀	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀末～10世紀初頭	1
	緑釉陶器蓋	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀末～10世紀前半	1
	緑釉陶器香炉	中世奈良（北室）遺跡	北室町	9世紀末～10世紀前半	1
	緑釉陶器香炉	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀末～10世紀前半	1
	緑釉陶器椀	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	10世紀	2
	緑釉陶器皿	菅原東遺跡	横領町	10世紀	1
	灰釉陶器壷	東九条町所在遺跡	東九条町	9世紀	1
	灰釉陶器皿	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀末～10世紀初頭	1
	灰釉陶器段皿	大安寺旧境内	大安寺二丁目	9世紀末～10世紀初頭	1
	灰釉陶器椀	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀末～10世紀初頭	1
	灰釉陶器椀	菅原東遺跡	青野町	9世紀末～10世紀初頭	1
	灰釉陶器椀	大安寺二丁目所在遺跡	大安寺二丁目	9世紀末～10世紀初頭	1
	灰釉陶器皿	大安寺旧境内	大安寺一丁目	10世紀中頃～後半	1

■唐物の世界　～輸入陶磁器～

5	白磁碗（定窯）	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀	2
	青磁碗（越州窯系）	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀	1
	青磁碗（越州窯系）	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀	1
	青磁鉢（越州窯系）	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀	1
	青磁碗（越州窯系）	大安寺旧境内	大安寺一丁目	9世紀	1
	青磁輪花碗（越州窯系）	菅原東遺跡	菅原町	9～10世紀	1
	青磁碗（越州窯系）	大安寺旧境内	大安寺二丁目	10世紀	1
	青磁合子（越州窯系）	菅原東遺跡	菅原町	10世紀	1
	青磁水注（越州窯系）	東大寺旧境内	水門町	10世紀	1
	白磁碗	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀中頃	1
	白磁碗	杏町所在遺跡	杏町	12世紀中頃	1
	中国産（褐釉ヵ）壷	法華寺町所在遺跡	法華寺町	12世紀中頃	4
	青磁碗（龍泉窯系）	西大寺旧境内	西大寺南町	12世紀後半	1
	青磁皿（同安窯系）	西大寺旧境内	西大寺南町	12世紀後半	1
	青磁碗（同安窯系）	中近世奈良遺跡	井上町	12世紀後半	1
	青磁碗（龍泉窯系）	古市城山遺跡	古市町	13世紀後半	1
	青白磁合子	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	12世紀	1
	青白磁合子	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀	4
	青白磁梅瓶	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	13世紀	3
	中国産褐釉壷	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	13世紀	6
	天目碗（建窯）	西大寺旧境内	西大寺南町	13世紀	1
	鉄絵皿	東大寺旧境内	水門町	13～14世紀	1
	青磁碗（龍泉窯系）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	15世紀	1
	白磁皿	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14～15世紀	1
	白磁皿	多聞城跡	法蓮町	16世紀	1
	白磁碗	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀	1
	白磁皿	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16～17世紀	1
	鉄釉壷	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀	4
	青花皿	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16～17世紀	1

■中世陶器の隆盛　～国産陶器～

6	常滑産甕	中世奈良（高畑）遺跡	高畑町	13世紀前半	1
	備前産甕	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀前半	1
	須恵器甕（東播系）	中世奈良（井上）遺跡	井上町	12世紀後半	1
	須恵器鉢（東播系）	中世奈良（井上）遺跡	井上町	13世紀前半	1
	山茶碗	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀前半	1
	渥美産壷	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	1
	瀬戸・美濃産皿	多聞城跡	法蓮町	16世紀	1
	瀬戸・美濃産擂鉢	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀	1
	瀬戸・美濃産椀	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀	1
	瀬戸・美濃産皿	中世奈良（高畑）遺跡	高畑町	16世紀後半	2
	瀬戸産水瓶	東大寺旧境内	水門町	14世紀前半	1
	瀬戸産平碗	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	15世紀前半	1
	瀬戸産碗	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	15世紀前半	1
	信楽産擂鉢	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	15世紀中頃	1
	信楽産甕	大安寺旧境内	大安寺五丁目	15世紀後半	1
	備前産壷	中世奈良（椿井）遺跡	椿井町	16世紀後半	4
	備前産擂鉢	中世奈良（勝南院）遺跡	勝南院町	16世紀後半	1

■花かたにやくなら火ばち　～瓦質土器～

7	瓦質土器盤	中世奈良（林小路）遺跡	林小路町	12世紀後半	1
	瓦質土器盤	中世奈良（上三条）遺跡	上三条町	13世紀前半	1
	瓦質土器火鉢	東大寺旧境内	水門町	14世紀前半	1
	瓦質土器火鉢	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀後半	1
	瓦質土器火鉢	西ノ京遺跡	七条町	14世紀後半	5
	瓦質土器火鉢	大安寺旧境内	大安寺四丁目	15世紀前半	1
	瓦質土器香炉	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀後半	1
	瓦質土器風炉	中世奈良（阿字万字）遺跡	阿字万字町	15世紀前半	1
	瓦質土器擂鉢	六条町所在遺跡	六条町	15世紀中頃	1
	瓦質土器火鉢	西ノ京遺跡	七条町	16世紀	1
	瓦質土器羽釜	中世奈良（北室）遺跡	北室町	17世紀初頭	1
	瓦質土器華瓶	中世奈良（北室）遺跡	北室町	17世紀初頭	1
	瓦質土器香炉	中世奈良（北室）遺跡	北室町	17世紀初頭	1

瓦作りの伝統

■天平文化の伝流　～復古調紋様瓦～

8	復古調軒平瓦	大安寺旧境内	大安寺一丁目	8世紀末～10世紀初頭	1
	復古調軒平瓦	大安寺旧境内	大安寺四丁目	11世紀	1
	軒平瓦6643Ｃ	平城京跡（右京二条三坊七坪）	菅原町	8世紀	1
	軒平瓦6682Ｂ	大安寺旧境内	大安寺四丁目	8世紀	1
	復古調軒丸瓦	大安寺旧境内	大安寺二丁目	11世紀	1
	復古調軒丸瓦	大安寺旧境内	大安寺四丁目	11世紀	1
	軒丸瓦6275A	平城京跡（右京二条三坊二・三坪）	菅原町	8世紀	1

■巴紋の出現

9	蓮華巴紋軒丸瓦	大安寺旧境内	大安寺四丁目	12世紀初頭	1
	巴紋軒丸瓦	大安寺旧境内	大安寺一丁目	12世紀後半	1

■文字瓦の流行

１０	「東大寺大佛殿」文字紋軒瓦	東大寺旧境内	雑司町	12世紀末	3
	「大安寺」文字紋軒丸瓦	大安寺旧境内	大安寺二丁目	13世紀中頃	1
	「大安寺」文字紋軒平瓦	大安寺旧境内	大安寺四丁目	13世紀中頃	1
	「大安寺寶塔」文字紋軒平瓦	大安寺旧境内	大安寺四・二丁目	13世紀中頃	2
	「大安寺塔」文字紋軒丸瓦	大安寺旧境内	東九条町	13世紀中頃	2

■寺から城へ

１１	多聞城創建軒瓦	多聞城跡	法蓮町	16世紀	2
	多聞城創建軒平瓦	多聞城跡	法蓮町	16世紀	1
	多聞城法隆寺同笵軒平瓦	多聞城跡	法蓮町	15世紀	1

■製作技法の変化

１２	顎貼り付け技法	東大寺旧境内	雑司町	12世紀末	2
	瓦当貼り付け技法	大安寺旧境内	大安寺四・二丁目	13世紀中頃	1
	顎貼り付け技法	多聞城跡	法蓮町	16世紀	1

中世奈良のくらし

■くらしの品々

１３	「延久参年(1071)」墨書曲物	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
	土師器皿小	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	3
	土師器皿大	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1

	黒色土器Ｂ類皿	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
	黒色土器Ｂ類椀	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
	瓦器皿	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
	瓦器椀	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
	須恵器鉢	六条町所在遺跡	六条町	11世紀後半	1
１４	鉄製杏葉轡	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	1
	土師器皿小	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	2
	土師器皿大	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	1
	瓦器皿	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	1
	瓦器椀	佐保田庄遺跡	法蓮町	12世紀後半	2
１５	双鳥文六稜鏡	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	11世紀	1
１６	花鳥文鏡	中世奈良（井上）遺跡	井上町	14世紀	1
１７	隆平永寶（皇朝十二銭）	大森町所在遺跡	大森町	（初鋳796）	1
	富壽神寶（皇朝十二銭）	東九条町所在遺跡	東九条町	（初鋳818）	1
	承和昌寶（皇朝十二銭）	菅原東遺跡	菅原町	（初鋳835）	1
	饒益神寶（皇朝十二銭）	西木辻町所在遺跡	西木辻町	（初鋳859）	1
	貞観永寶（皇朝十二銭）	大安寺町所在遺跡	大安寺町	（初鋳870）	1
	寛平大寶（皇朝十二銭）	水間遺跡	水間町	（初鋳890）	1
	延喜通寶（皇朝十二銭）	大安寺旧境内	大安寺四丁目	（初鋳907）	1
	乾元大寶（皇朝十二銭）	中世奈良（椿井・東城戸）遺跡	椿井町・東城戸町	（初鋳958）	1
１８	宋通元寶（北宋銭）	菅原東遺跡	青野町	（初鋳960）	1
	淳化元寶（北宋銭）	法華寺町所在遺跡	法華寺町	（初鋳990）	1
	咸平元寶（北宋銭）	興福寺旧境内	東向中町・中筋町	（初鋳998）	1
	祥符元寶（北宋銭）	中世奈良（芝新屋・林小路）遺跡	芝新屋町	（初鋳1009）	1
	天聖元寶（北宋銭）	中世奈良（中院・鵲）遺跡	中院町・鵲町	（初鋳1023）	1
	皇宋通寶（北宋銭）	中世奈良（北室）遺跡	北室町	（初鋳1038）	1
	治平元寶（北宋銭）	中世奈良（中新屋町）遺跡	中新屋町	（初鋳1064）	1
	元豊通寶（北宋銭）	中世奈良（中院・鵲）遺跡	中院町・鵲町	（初鋳1078）	1
	元祐通寶（北宋銭）	中世奈良（高天）遺跡	高天町	（初鋳1086）	1
	紹聖元寶（北宋銭）	中世奈良（今小路）遺跡	今小路町	（初鋳1094）	1
	大観通寶（北宋銭）	二条大路南一丁目所在遺跡	二条大路南一丁目	（初鋳1107）	1
	政和通寶（北宋銭）	中世奈良（中院・鵲）遺跡	中院町・鵲町	（初鋳1111）	1
１９	洪武通寶（明銭）	中世奈良（中院・鵲）遺跡	中院町・鵲町	（初鋳1368）	1
	永楽通寶（明銭）	中世奈良（中院・鵲）遺跡	中院町・鵲町	（初鋳1408）	1
２０	蛭藻金	中世奈良（北室）遺跡	北室町	16世紀	1

■人々の祈り

２１	金銅鈴	西ノ京町所在遺跡	西ノ京町	10世紀中～後半	1
２２	「伊勢竹河」墨書人形	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃	5
	「嘉祥元年（848）」墨書石	法華寺町所在遺跡	法華寺町	9世紀中頃	1
２３	能面	菅原東遺跡	菅原町	15世紀	1
２４	ごんぱい	中世奈良（北室）遺跡	北室町	14世紀末～15世紀初頭	8

■死者への弔い

２５	蔵骨器（羽釜）	古市城山遺跡	古市町	15世紀中～後半	3
２６	井戸枠転用卒塔婆	菅原東遺跡	青野町	15世紀中頃	3
２７	柿経	大宮町七丁目所在遺跡	大宮町七丁目	16世紀	6

年　表

平安時代	784	延暦３	都が山背の長岡に遷る
	794	延暦13	平安京に遷都
	813	弘仁４	藤原冬嗣、興福寺南円堂建立
	996	長徳２	関白藤原道長、春日参詣
	1093	寛治７	興福寺僧兵、都へ強訴
	1136	保延２	春日若宮祭（おん祭）始まる
	1180	治承４	平重衡、南都焼打ち
鎌倉時代	1195	建久６	東大寺再建
			この頃、奈良の街地発達
	1235	文暦２	叡尊、西大寺に住し、西大寺を復興
室町時代	1385	至徳２	足利義満、春日参詣
	1428	正長元	正長の土一揆（柳生徳政碑）
	1559	永禄２	松永久秀、大和へ乱入
	1567	永禄10	東大寺大仏殿焼ける
（戦国時代）	1574	天正２	織田信長、奈良へ下向
	1576	天正６	筒井順慶、大和守護になる
	1585	天正13	羽柴（豊臣）秀長、郡山城に入る
	1600	慶長5	大久保長安、大和代官になる
江戸時代	1613	慶長18	奈良奉行創設
	1709	宝永６	東大寺大仏殿再建
明治	1898	明治31	奈良市　市政施行

平成 23 年度　秋季特別展
南都の繁栄 －平城京その後－

平成 23 年 10 月 31 日発行

編集　奈良市埋蔵文化財調査センター

発行　奈良市教育委員会

開催期間　2011 年 11 月 1 日（火）～ 12 月 28 日（水）

奈良市埋蔵文化財調査センター
ARCHAEOLOGICAL RESEARCH CENTER , NARA CITY